

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	55	洋室と和室の2種類の居室があり、入居者個々の好みや身体機能に応じて選択されているが、和室の場合、畳からの立位時に手すりが無く、不安定な姿勢で立位されたり、ドアの取っ手を持って立位しようとする為、ドアが動いて転倒される事故が起きている。居室は全て個室である為、入居者個々が安全に自立して生活が送れるように整備(補助具の設置など)していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>残存機能維持、向上を図る</li> <li>可能な限りの自立支援をする</li> <li>憂いから事故予測をし事故防止する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者個々の残存機能や疾患(腰痛・膝関節痛・握力ほか)に配慮した補助具の設置・工夫により、負担の軽減を図ると共に、安全な日常生活を継続し自立支援とする。</li> <li>立位時、必要な場所に手すりを設置する。</li> <li>和室にベットを入れ、必要に応じてベット柵を「移動バー」に替える。</li> <li>滑り止めマットや衝撃緩和シートなどを使用する。</li> <li>必要に応じて、居室出入口に夜間灯を設置する。</li> </ul>	3ヶ月
2	35	開所から5年目、津波による避難勧告から2度、避難をした。1度目はチリ沖地震・2度目が東日本大震災である。現地にも「南海地震」が必ず起こる。地震から5～10分程で津波が来ると言われている。事業所の横には川が流れ、国道を隔てて白浜海岸がある為、7mの津波が来ると予測されているが、18名の認知症高齢者を誘導して安全に非難できる場所が、近くに無い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者と職員、全員が無事に避難する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に持ち出す物品をリックにセットしておく</li> <li>非常食や飲料水など保存食を準備し賞味期限を常に確認し必要に応じて新しいものと交換する。</li> <li>災害時連絡網やマニュアルを見直し、職員間で周知徹底</li> <li>推進会議などで、役場職員・消防署員・地域消防団・家族と連携を図り、避難場所や経路を明確にしておく。</li> <li>入居者個々で浮きぶくろ、事業所として救命胴衣などを準備</li> </ul>	6ヶ月
3	20	前年度も同じ目標を持って支援に取り組んだが、職員が入居者に付添って、入居者の親類・知人・友人宅など馴染みの場所へ訪問することは叶はなかった。受入側と家族さんとの、ご協力とご理解を得ることが出来なかった。推進会議でも議題とし話合ったが、事業所での外出行事や地域行事の参加・近隣商店でのお買い物・事業所周辺の散歩・美容室利用と1年を通して、あまり変化が無かった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族さんとの外出・外泊の機会を多くする</li> <li>入居者自らが「此処へ行きたい」と意欲的に言って頂ける環境づくりをする。</li> <li>地域での外出機会を増やし地域住民との交流をこれまで以上に図る</li> <li>職員の付添で、希望する場所に行ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族さんと協力して、可能な限り、入居者本人の希望を叶えられるようにしていく。(訪問が無理なら、来所して頂くなど)</li> <li>入居者個々が遠慮なく、職員に「此処へ行きたい」と言える信頼関係を日常生活の中で再度、構築していく。</li> <li>事業所内の外出行事を増やし、家族さんや友人と共に出かけられる計画書の立案をする。</li> </ul>	12ヶ月 (1年間を通して)
4					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。